日進中だより

学ぶ生徒　誠実な生徒　鍛える生徒

令和6年 12月 2日
第 9 号

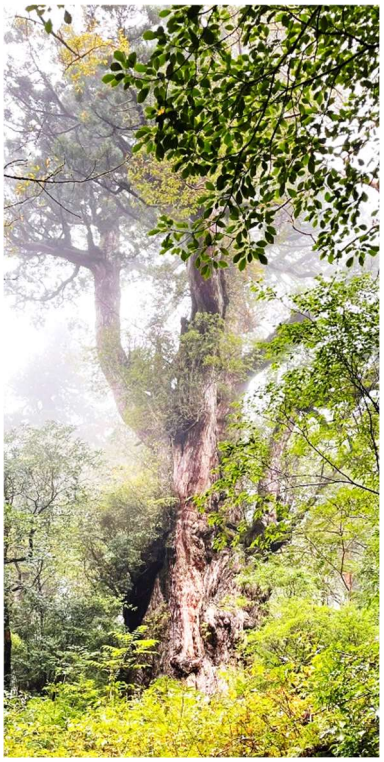
さいたま市立日進中学校
TEL 048-663-1251
FAX 048-663-0834

『 還 暦 』

校 長 小 熊 誠

めっきり、寒くなってきました。つい先日まで、半袖で過ごしていたのに、いきなり本格的な冬の到来です。四季の変化の美しいはずだった日本。何か、寂しい気もします。そんな中でも、日進の快進撃は続いています。埼玉県大会では、団体種目で、卓球男子準優勝、女子６位で、男女とも関東選抜出場、バドミントン男子準優勝、女子３位、野球と柔道女子はベスト８、個人でも、卓球男子ダブルスの優勝、バドミントン女子ダブルス準優勝、柔道男子３位等入賞が目白押しです。また文化部でも、吹奏楽部のアンサンブルが埼玉県大会進出を決め、演劇部や、美術部、華道部、１１組も、日進公民館や、お隣のイオン大宮店様の協力を得て、学校の主役から、地域の主役へと、大きな一歩を踏み出しています。この冬、しっかりと太く、強い根を伸ばし、春にさらに光り輝く、美しい花を咲かせることを信じています。保護者・地域の皆様、どうぞ御期待ください。

さて、今回は、「還暦」を迎えた私の話をします。まず「還暦」とは、干支が一巡して戻ることを示し、そのことから、生まれ変わるという意味も、循環するという意味もあります。私は、８月に「還暦」を迎え、先日、そのお祝いを兼ね、教え子たちと４人で屋久島に「縄文杉」を観に行ってきました。朝４時半に集合し、約10時間半に及ぶ、全行程約22キロの登山です。私の、「体がしっかりと動くうちに、富士山に登りたい」という願いを達成するために、教え子たちが立てた計画の第一弾です。教え子たちといっても、私が顧問だった陸上部の、42歳、40歳、40歳の三人、いいおじさんたちです。特に42歳の一番年かさの彼は、今こそ、普通に名の知れた企業で管理職として真面目に働いていますが、今までの彼は、紆余曲折様々で壮絶な人生を歩んで来ています。彼のおかげで、私も普通では味わえない、非常に稀で、貴重な経験を積ませてもらいました。一緒にいろいろな場所にも、機関にも行き、危ない橋も渡りました。40歳の一人は、その代の部長で、全国駅伝で優勝候補に名を挙げられながら、県予選で大きなアクシデントに見舞われ、２位に終わり全国が夢と消えたときのエースです。40歳のもう一人は、奥様も私の教え子で、同じ学校の陸上部同志のカップルの旦那です。そんなおじさんたち４人での珍道中となりました。彼らは、私のことを考え、私たちだけの、プライベートのガイドを雇い、私のペースに合わせての登山となりました。片道約11キロ、最初の約８キロは、昔トロッコの通っていた道。そして残りが、両手を使わざるを得ないような険しい山道です。そんな山奥に、樹齢1000年を超える「屋久杉」が、現れます。ウイルソン杉、大王杉。樹齢1000年を超えて初めて「屋久杉」です。いずれも人知を超えた崇高さを感じました。そして最後に、威風堂々と、そして強い生命力と近づきがたいオーラを全体から発している、樹齢7000年と呼ばれる「縄文杉」が神々しく聳(そび)えていました。震えました。上り約 11 キロのキツさが吹き飛びました。しかし、下りの途中で、私は、何と情けなく、足に力が入らなくなり、教え子たちの助けを借りる羽目になってしまいました。その時、42歳の彼が言いました。



「俺たちは、中学のとき、先生に、考えられないほどの心労と、数えきれないたくさんの時間を使わせてしまった。だから今度は、俺たちが、先生に思いを返す番なんだよ。」涙がでました。まさに「還暦」。巡り回ってきました。そして、彼らが、私の「還暦」の一番のプレゼントとなりました。彼らは、もう教え子たちではありません。共にこれからの人生を歩む仲間です。これからの人生に、また一つ楽しみが増えました。そして、３年生との面談真っ盛りの今、進路に迷っている生徒たちに思い切って「先生っていい仕事だと思いませんか」と語りかけてみようと思い出しています。

希望の登校　笑顔の活動　満足の下校